

2021年3月31日

つくし保育園

2020年度 苦情解決第三者委員との懇談のまとめ

○ 日程

第1回：2020年10月21日（水）19：00～20：30

第2回：2021年3月26日（金）13：00～14：00

○内容

(1) 上半期 下半期の苦情について

2020年度は2件の苦情が寄せられた。

① 描画遊びのペンの使い方について

この苦情は園児の祖母からいただいた。お迎えに行ったら子どもの足、手、体に自分ペンで書いた跡があり、この活動の保育の意図を教えてほしいというものだった。

苦情を頂いた後、職員会議を開き、職員で意見交換を行った。この日、なぜ午後に描画活動を1歳児で一斉に行ったのか・・・については、担任から、「この日は天気も悪く、外遊びも十分行えず、子どもも身体をもっと動かしたい様子であった。心も体も解放できるよう、大きな紙にみんなで絵をかくことにした」と話された。

描画活動は、午前中に行うことがよかったのではないか。また、1歳児での一斉活動としては、配置的にも時間的にも無理があったのではないか。保育士は子どもの思いに共有、共感したうえで保育を作り上げていくが、今回は、描画をしているうえで「こんなにかけた」「こんな色になった」というこどもの発見への共有が優先して、活動に区切りをつけられなかったのでは・・・という意見が出された。今後の保育で十分配慮していくことを確認した。

後日、祖母と再度の懇談を行い、上記の職員で話し合った内容を伝えた。「担任以外の保育者が、他クラスの子どもの姿や、活動を見て意見を出し合ってもらえてよかった。いろんな意見の中で、子どもにとってより良い保育を見出してほしい。」と祖母からも伝えられ、職員も描画活動や保育を考える良い機会となった。

② 風邪をひいている子どもへの対応について

風邪を引いてお休みをしたが、解熱をして元気になったので登園すると、発熱を伝えられ、子どもをお迎えに行った。帰宅すると平熱に戻っていた。コロナ禍で慎重になる気持ちはよくわかるが、解熱して登園したら、もう少しゆったりして遊びを考えてほしい。

職員で今回の保護者の思いについて話し合った。

クラスでの遊びは、「濡れないように配慮して遊んでいたが、友だちに共感して集団びに参加した際に服が濡れてしまい、すぐ着替えて対応したがもう少し配慮できればよかった」「集団の中で、遊びを計画した際、「～だから遊べない」がまだ理解できない子どもへ丁寧な対応が難しいが、水遊び以外の遊びに誘ったりしながら対応したい」などの意見が出た。

後日、話し合ったことを保護者に伝えた。その中で、保護者の就労の大変さ、また、保護者支援として保育園が子どもを中心に考えていくことを改めて確認することができた。

第三者委員からは、子ども、孫のことに関して、大人が話しやすく意見を下さることはありがたい。自分も「つくし保育園」で親にしてもらった思いが大きい。言い合える中で、子どもを取り巻く大人同士のつながりができればいいと感じた。

つくし保育園の良いところは、次につなげないためにみんなで話し合い共有しているところである。今後も頑張ってください。という言葉をいただいた。

(2) 自己評価について

保育に関しては、職員一丸となって「子どもがたのしかつたー」と思える保育を目指してきたという点が多かった。子どもの姿から、保育の振り返りをする中で、クラスの雰囲気はよくなり、子どもを真ん中に保育が行えた。

今年度は、園舎建設、引っ越し、新園舎での生活に加えて、「コロナ禍の保育」という今まで考えることもなかった見えないウイルスへの対応と全てにおいて職員で一丸となって取り組んできた。

第三者委員からは、どんな時でも職員が一丸となって保育を行っていることを感じた。新園舎も素晴らしいが、旧園舎での家族のような生活も忘れず、つくしらしさを大切にしたいと話された。

(3) 園評価 保護者アンケートについて 50 世帯中、50 世帯回答 100%

旧園舎での全ての部屋に声が響くにぎやかな保育から、新園舎では、落ち着いて生活できる環境が整ったと感じる保護者が多かった。

今年度はコロナ禍における行事の変更、中止に関しては、もっと早く知らせてほしい等の意見もあり、見通しながら考えていく大変さを感じた。

第三者委員からは、全ての保護者がアンケートに答えてくれありがたいですね。と伝えられた。